



CONTENTS	
Nihongo-Kyōiku Tsūshin No. 59/SEP 2007	
■ 表紙・特集	1
『エリンが挑戦! にほんごできます。』 一この教材で伝えたい考え方— 日本語国際センター 専任講師 築島 史恵	
■ 日本語の教え方イロハ 第5回	4
聴解	
■ 授業のヒント	6
“もっと”ことばで遊ぼう!	
■ 新聞・雑誌から見る現代日本 第27回	8
都会の暮らしと田舎の暮らし	
■ 本ばこ (新刊教材・図書紹介)	11
■ 文法を楽しく!! 第9回	14
現象描写・判断・働きかけ (2)	
■ KC (関西国際センター) 研修生の Nipponレポート 第9回	16
放送局の仕事	
* 本誌で、ルビが文字の下に付いているのは、紙や物差しなどでルビを隠して、漢字の読みの練習ができるようにするためです。	

『エリンが挑戦! にほんごできます。』

一この教材で伝えたい考え方—

日本語国際センター 専任講師 築島史恵

国際交流基金では、主として若い学習者を対象にしたDVD教材『エリンが挑戦! にほんごできます。』を制作しました。この教材は、「ことば」と「文化」、両方の学習に使うことができる教材です。この記事では、この教材をどのような考え方で制作したか、そして、どのように使っていただきたいか、述べたいと思います。



1. ことばの学習のために

—「日本語でできる」という自信と「自分のことを話す」という勇気を育てる

この教材で日本語をはじめ勉強するのは、少しむずかしいかもしれませんが、学校で勉強したり自分で教科書を読んだりした学習者が、勉強した日本語を実際に使う自信をつけたり、日本語で自分のことを話す練習をしたりするための教材です。大切な表現や文法も取り上げましたが、その勉強が目的ではありません。この教材では、各課で「できるようになってもらいたいこと」をタイトルにしました(これを、私たちは、「CAN-DO」のシラバスと呼んでいます)。各課のいろいろな場面で、日本語を「口に出す」経験をしてもらいたいと思っています。その結果、一つずつ、「日本語でできること」をふやすことができます。

(1) 勉強してきた日本語を使って、日本で生活する体験ができる

例えば、第4課「(コンビニで商品の) 場所を聞く」、第6課「(バスで) ねだんを聞く」、第8課「(ファーストフード店で) 注文する」など、多くの課で、日本の生活を体験することができます。できるだけ一般の高校生の日常生活を自然に取り上げるために、日本のいろいろな学校の高校生に、内容を相談しました。エリンと一緒に口を開いて、勉強してきた日本語が日本でも通じる実感味わってほしいです。

(2) 日本語を通して、自分から発信する自信や勇気を持つことができる

最初のころ、エリンも、一つ一つの場面で、とても緊張しています。でも、この教材では、勇気を持って自分のことを発信したり、積極的に相手のことを聞いたりすることを大切にしています。例えば、第7課「自分のしゅみを

On the Web

http://www.jpj.go.jp/j/japan_j/publish/tsushin/index.html

以下の記事はJFのウェブサイトのみにてご覧になれます。

- 日本語・日本語教育を研究する 第33回
ピア・ラーニング
早稲田大学大学院日本語教育研究科教授 舘岡 洋子
- 授業に役立つホームページ 第18回
YOMO YOMO にほんごを読もう
- 海外日本語教育レポート 第16回
日中友好大連人材育成センターおよび大連における日本語教育の現状
国際交流基金日本語教育派遣専門家 立花 秀正
- にほんごハローワーク 第9回
ベトナムの将来に備えて日本の医療を学ぶ
レティキム フェさん
看護師 (出身: ベトナム)

『日本語教育通信』 第59号

2007年9月発行

編集・発行 国際交流基金 日本語グループ
〒107-6021 東京都港区赤坂 1-12-32
アーク森ビル 21F
TEL. 81-3-5562-3525 FAX. 81-3-5562-3498
E-Mail. jfnckt@jpj.go.jp
編集協力
株式会社アーバン・コネクションズ

話す」、第15課「(お祭りで) 自分のきぼう (やりたいこと) を言う」、そして、第23課「(遊園地で) 友だちをさそう」などの課があります。また、例えば、第17課「はんたいのことを言う」では、「～けど」を使ってエリン自身の気持ちを言う状況にしたり、第18課「くらべて言う」では、「～のほうが」を使って、エリンが自分で二つのものを比べて意見を言う場面になりました。つまり、学習者が、受け身ではなく、自分の気持ちや意見を言って行動する機会を増やしています。この教材によって、日本語の学習にかぎらず、自分の国の生活の中でも、自分の気持ちを強く持つて話したり、自分から発信したりすることができるようになってほしいと考えています。

2. 文化の学習のために

— 「気づいたこと、発見したこと」を「考えたり話し合ったりする」きっかけを与える

2.1. 海外の学習者が知りたいこと

今回の教材制作のために、海外11か国で日本語を勉強している高校生約1100人とその教師約380人を対象に、日本の文化に関する知識や興味、映像教材に期待することについて、アンケートを行いました。その結果、日本について知りたいことや映像で見たいことについて、次のような3種類の回答がありました。

(1) 教科書に言葉で出ている「物」や「こと」を実際 の目で見たい

まず、日本の物や日本人の様子を見たい、知りたい、という回答です。例えば、高校生の一日の過ごし方、クラブ活動、塾、アルバイト、年中行事、交通機関、店、食べ物などです。

(2) 伝統的なものや歴史的なものを見たい

例えば、茶道、生け花、折り紙、式、寺、神社などです。「授業などで、それについて聞いたり見たりする機会が多いから、もっと全体を知りたい。」と答えた高校生と、「現在の日本もよく知っているが、それより伝統的なもののほうがおもしろい。」と書いた高校生がいました。

(3) 現代の日本、ありのままの日本を見たい

例えば、アニメ、まんが、企業、若者のファッションなど、新しい日本を見たい、知りたい、という希望もたくさんありました。

一方、高校生の中には、「知っている日本人」や「知っているアニメやまんが」などについて、教師より

ずっとたくさんの新しい情報を持っている高校生もいました。彼らは、授業では、自分でも入手できるさまざまな映像(アニメやまんがなど)自体を取り上げてほしいと考えているのではなく、自分達が得た情報や映像の背景にある日本人やその考え、それを作ってきた歴史など、より深いものを知りたいと答えていました。

表1 「知っている日本人」(A国の回答から)

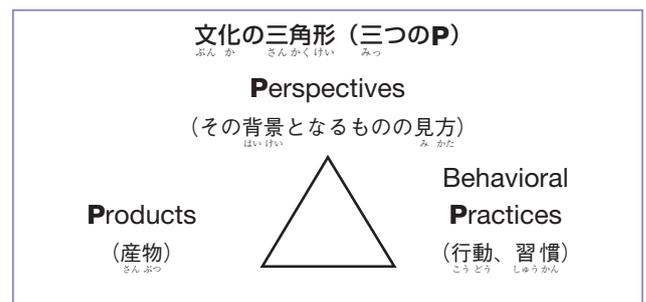
教師	学習者
小泉首相、 イチロー、夏目漱石、 プリンセス黒田、 宇多田ヒカル、 スマップ…	宇多田ヒカル、嵐、V6、浜崎あゆみ、 木村拓哉、上戸彩、スマップ、中島美嘉、 X-Japan、ミスチル、乙武洋匡、道場 六三郎、中田英寿、イチロー、ハード ゲイ、修二と彰、小泉首相、宮崎駿 ……

表2 「知っているアニメやまんが」(B国の回答から)

教師	学習者
ドラえもん、 クレヨンしんちゃん、 NARUTO、 ちびまるこちゃん、 名探偵コナン、 こぼちゃん、 忍者ハットリくん …	エヴァンゲリオン、美少女戦士セーラー ムーン、るろうに剣心、犬夜叉、 ワンピース、ヒカルの碁、キャプテン 翼、スラムダンク、テニスの王子様、 GTO、カードキャプターさくら、 フルーツバスケット、ガンダム、 デジタルモンスター、ポケットモン スター、遊戯王、ドラえもん、クレヨン しんちゃん、名探偵コナン、 NARUTO、Samurai Deeper KYO、 だあ!だあ!だあ! …

2.2. 映像で考えてほしいこと

この教材では、このようなアンケート結果をふまえて、言語の学習だけでなく、文化の学習にも使えるように、映像に入れるもの、取り上げるものを決めました。そのために、次のような三角形で、文化面のポイントを書き出しました。これは、アメリカの「ナショナルスタンダードズ」*で採用されている文化のあつかい方を参考にしたものです。そして、各課で示したい文化をこの三角形で整理しました。



例えば、「コンビニ」というトピックでは、まず、

Products (産物)には、コンビニの商品、お弁当、おにぎり・・・などと、コンビニにある物、コピー機、ATM、そして店員の制服などを書き出すことができます。次に、**Practices (行動、習慣)**には、24時間開いている、宅配便を送れる、払い込みができる、そしてお客さんが立ち読みをしている・・・などを書き出すことができます。そして、その**Perspectives (背景)**として、コンビニが本当に便利 (convenient<コンビニ) で、日本人の日常生活で大きな役割をはたしていること、日本のサービスやその考え、豊富なおそうざいやお弁当を買って帰って家で食べる人が増えていること・・・など、さまざまなものの見方につなげることができます。この**Perspectives (背景)**の部分は、例として、私たちが考えられる見方をあげて整理しましたが、本当は、学習者自身に考えてもらいたい部分です。ですから、教材では、できるだけ制作者の価値判断や評価を入れないで、客観的にたくさんの映像を入れる努力をしました。

教材では、一つのトピックを一つの課で中心的に取り上げましたが、ほかの課で出てくるものも総合的に見ると、もっと大きい視野を持つことができます。例えば、携帯電話は、第14課「よそうを言う・携帯電話」で多く取り上げられています。「基本スキット」では、待ち合わせに遅れた友だちからメールが来ます。「応用スキット」では、友だちと友だちが好きな男の子の写真を携帯電話でとってあげます。「見てみよう」というコーナー（このコーナーは、台本を作らず、実際の高校生に話を聞きながら、できるだけ彼らの生活を再現するようにしました。）では、日本の高校生がどんなふう携帯電話を使っているかを見ます。「やってみよう」というコーナーでは、絵文字や顔文字を使ってメールを書きます。でも、携帯電話は、ほかの課にも出て来ます。例えば、第1課の「見てみよう・高校生の朝」や第2課

の「見てみよう・高校生活」では、女子高生が生活の中で、実際に携帯電話を使っています。第9課の「応用スキット」では、スポーツクラブにいる姉妹に、母親から電話がかかってくる。このように一つのトピックでも、多角的な視点で多くの映像を入れ、学習者が自分の目で「気づいたり」、「発見したり」、そして、「考えたり」、「まわりの人と話したり」するきっかけになるような教材を作りました。2.1.に書いたアンケートでも、高校生自身が「単に表層的な事象だけでなく、考え方や人間関係を知りたい」「高校生の人間関係、考え方、価値観などがわかる映像が見たい」「似ているだろうと決めてかからないで、ありのままを見せてほしい」などと書いています。

3. この教材で伝えたいこと、願っていること

ここまで述べてきたように、この教材は、海外で使われることをとても大切に考えて制作しました。特に中学生や高校生の日本語学習の現場は、多様な学習目的やカリキュラムがあって、制作者側から、「こういうことを知りなさい」「こういうことを勉強しなさい」と決めることはできません。もちろん、教材はいろいろな制限があるので、完全に自由に日本を伝えることはできません。でも、この教材は、来日や将来の仕事のために日本語を勉強する学習者だけでなく、自分の成長のために、日本語を学んでいる学習者にも利用してもらいたいと強く思っています。日本語の学習を通して自信を育てたり、日本の映像を通して日本や自分の国、日本人や自国の人、自分自身について発見したり、考えたり、議論したりしてくれたらいいと思います。そして、自分の国も日本も、両方、好きになってほしいと願っています。

* ナショナルスタンダードについては、国際交流基金ホームページの「日本語教育別情報」シラバス・ガイドライン一覧☆北米に、その翻訳がアップされています。

(http://www.jpff.go.jp/j/japan_j/oversea/kunibetsu/syllabus/syllabus.html)

DVD で学ぶ日本語 vol. 1～3

エリンが挑戦！ にほんごができます。

この若者向け日本語学習教材は、留学生エリンと一緒に楽しく勉強しながら、「にほんごができる」という勇氣と自信を持つことができるようになっていきます。実際に使われている本物に近いことばを重視し、若い世代が興味を持つ場面やトピックを選定。異文化、多文化についての視野を広げられるような映像を満載に盛り込みました。また、1つ1つのコーナーは短い時間で構成されていますので、目的に合わせて使うことができます。



vol.1 DVD 1 枚付 好評発売中！
(978-4-89358-624-7)

vol.2 DVD 1 枚付 10月発売予定
(978-4-89358-625-4)

vol.3 DVD 2 枚付 10月発売予定
(978-4-89358-626-2)

各B5判/各2,520円(税込)

ご注文・お問い合わせは

にほんごの凡人社

〒102-0093
千代田区平河町1-3-13 菱進平河町ビル8F
TEL: 03-3263-3959 FAX: 03-3263-3116
info@bonjinsha.com
<http://www.bonjinsha.com>

国際交流基金

第5回
だいご かい

日本語の教え方

伊呂波

聴解

日本語国際センター専任講師 横山紀子
にほんごこくさい せんにんこうし よこやまのりこ

海外で活躍している日本語教師のみなさんから、よく「日本語教授法を知りたい」「すぐに使える授業活動を提供してもらいたい」という要望をいただきます。

「日本語の教え方 イロハ」のコーナーでは、日本語国際センターの専任講師が、日本語の教え方を学んだことのない方に、「コースデザイン」や「読解」「会話」「聴解」「評価」などの基本的な教授理論、教授知識をわかりやすく解説します。既に日本語を教えている方も日本語教授法に関する基礎固め、知識の再点検にお役立てください。

聴解指導で教師ができることは？

聴解指導での教師の役割は何をすることでしょか。ここでは、学習者に音声テキストを聞かせて理解を確認するだけでなく、学習者の聞く力を積極的に伸ばすことを重視して考えていきます。聴解指導で教師ができることは、大きく分けて二つあります。

- (1) 学習者に聞かせる音声テキスト（日本語の音声）を準備する。
- (2) 学習者が聞いて理解する「過程」を助ける。

以下では、この二つの役割について順番に述べます。

音声テキストの種類

学習者に聞かせる音声テキストとしては、市販の録音教材を使うのが一般的だと思いますが、他にもいろいろなことが考えられます。まず、周囲の日本人や日本語話者の発話を録音してテキストとして使うことができます。海外では、このような録音のチャンスが少ないことは確かですが、例えば学習者の先輩（日本語コースの上級生）や他の教師が学校や地域の行事について情報を伝えたり、感想や意見を述べたりするものなら比較的簡単に録音することができます。日本に留学した先輩や日本語を使って仕事をしている先輩の話などは、学習者の関心も高いのではないのでしょうか。学習者の日本語のレベルを知っている先輩や教師であれば、学習者に合わせたレベルの日本語で話してもらうこともできます。

聴解指導に使える音声テキストは、録音だけではありません。教室の中で教師が話す日本語、他の学習者が話す日本語も大事な聴解のリソースです。話の内容は、

家族の紹介、休日の経験、趣味の話、最近見た映画や読んだ本の紹介、社会問題に関する意見など、学習者のレベルに合わせてさまざまに考えられます。

日常生活の聴解をふり返ってみると、録音を聞く聴解よりも、話し手と対面して直接話を聞く聴解のほうがずっと機会が多いことがわかります。話し手と対面する聴解では、音声による情報を理解することだけでなく、次のようなことが必要です。

- ① あいづちを打つなど適切な反応を返す。
- ② 必要に応じて質問をして自分の理解を確認する。
- ③ ジェスチャーなど非言語的要素によって伝えられる情報を理解する。

①～③のような聴解技能は、LL室で黙って録音を聞いて理解確認の課題に答えるだけでは養成されません。聴解授業では、教師やクラスメイトの話に対面して聞くような活動もぜひ取り入れてください。

音声テキストから言語を学ぶ

聴解学習の目的としては、音声テキストを理解することに加えて、音声テキストから言語を学ぶことが重要です。第2言語習得研究では、新しい単語や表現とその使い方を「聞くことによって習得する」ことが非常に重要だと言われています。従来の聴解指導では、音声テキストにふくまれている新しい単語や表現については、あらかじめ教えておいてからテキストを聞くのが一般的でした。しかし、「聞くことによって習得する」ことが重要だとすれば、新しい単語や表現について、テキストの文脈から学習者自身に推測させることが必要です。ここでは、音声テキストとして、未習の単語や表現

をふくんだものを使うことを提案します（未習単語の割合が多すぎるとは難しくなりますが、大体テキスト全体の5～10%程度なら大意を理解することができると考えられます）。未習の単語や表現については、聞く前にすべて説明するのではなく、むしろテキストの内容理解ができた後にとりあげて説明したり練習したりすることを勧めます。

実生活の聴解では、学習者は未習の単語や表現をふくんだものを聞かなければなりません。教室での聴解はよくできても実生活(教室外)の聴解は苦手という学習者を作らないためにも、知らないことばや聞き取れない部分を推測させる活動を初級の始めから導入しましょう。

理解の「過程」を助けるとは？

では、「理解できない」部分をふくんだテキストの「理解を助ける」には、どうすればいいのでしょうか。学習者が理解できなかった部分について意味を説明したり、文字のスクリーンを見せたりするのは、理解の「結果」を与えることで、理解の「過程」を助けることではありません。聴解指導では、「理解できない」部分をふくんだテキストを推測などの戦略を使って理解する方法を練習させることが必要です。「戦略」とは、学習者が不足した理解を補うために用いる方策ですが、聴解の主要な戦略として、次の六つがあります。

- (1) 情報を選別する：自分の目的のために重要な部分に注意を集中して必要な情報を選別し、重要な部分にはよく理解できなくても気にせず、切り捨てて聞く。
- (2) 予測する：音声テキストの場面や話題に関する手がかりを十分に活用して、予測してから(あるいは予測しながら)聞く。
- (3) 推測する：知らないことばや聞き取れない部分について、前後の文脈や背景知識から意味を推測する。
- (4) 質問する：人と対面しての聴解では、適切な質問によって理解を確認する。
- (5) 反応する：「聞いて理解する」ということは、聞いた内容を自分の経験や背景知識と照合することで、その結果、驚き、感心、納得、共感などの反応が生まれる。このような反応を表現することも聴解活動の一部として重要である。
- (6) モニターする：「モニターする」とは、理解をチェックすることで、(1)～(5)の戦略をコントロールする最も重要な戦略である。例えば、必要な情報が選別できたか、予測は正しかったか、推測したことはテキストの他の部分の内容と矛盾しないかなど、いまの自分には「何がわかって」「何がわかっていないか」をチェックし続けることである。

授業計画のためのガイドライン

未習の単語や表現をふくんだテキストを用い、上で紹介した戦略を積極的に使った聞き方を練習させるために、次の3段階に分けて、授業計画のガイドラインを考えてみました。

前作業 これから聞くテキストについて学習者の背景知識を活性化するなど、聞く前の準備をする。

本作業 テキストを数回にわたって聞いて、少しずつ理解を深める。

後作業 聞いた後に反応を表現したり、テキストから言語を学んだりする。

前作業

- (a) テキストの内容について学習者が持っている知識や情報、経験などを引き出す。
- (b) テキストに関連した絵や写真を利用して、内容を予測させる。
- (c) キーワードを確認する。ただし、知らない語をすべて説明するのではなく、文脈から推測できそうな語は本作業で推測させる。
- (d) 聞く前に質問を与え、聞きとりの目的を意識させる。

本作業

- (e) 聞く前に予測したことが正しかったかどうか確認させる。
- (f) 1度目に聞くときは大意をとることに集中させ、細部の理解は2度目以降の聞きとりで確認する。
- (g) 知らない語や聞き取れなかった部分を推測させる。
- (h) 理解できなかったことについて質問させる。

後作業

- (i) 聞いた内容について意見や感想を言ったり、書いたりする。
- (j) 聞いた内容に関連して学習者が持っている知識や情報を発表させる。
- (k) テキスト中の単語や表現を学習する。(テキストの空白うめ・再話・ロールプレイ等)

後作業では、「話す」「書く」という産出活動を積極的に導入することで、聞いて理解した言語表現を定着させるという狙いもあります。

対面の聴解では、テキストがあらかじめ決まっていないし、録音のようになり返しの聴解はできませんから、上のガイドラインがすべて適応できるわけではありません。対面の聴解では、質問の戦略や反応の戦略に重点を置いて練習するといいいでしょう。Rost (1991)には、対面の聴解についての教室活動がたくさん紹介されています。

参考文献

国際交流基金(近刊)『国際交流基金日本語教授法シリーズ5 聞くことを教える』ひつじ書房
Rost, M. (1991) *Listening in action*, New York: Prentice Hall.

★ 授業のヒント

遊び的な要素を加えると、授業の雰囲気が変わるだけでなく、学習効果が高まることもあります。今回は、前回に続き、日本語のことは遊びを授業作りに生かすアイデアを紹介します。

テーマ “もっと” ことばで遊ぼう！

目的
日本語のことば遊びを通して自分を表現する。 ことばで遊びながら楽しく学習する。
学習者のタイプ
初級 後半～上級
クラスの数
何人でも

今、日本では、学生や社会人向けの日本語の練習帳や反省帳など、日本語に関する本がたくさん出版され、日本人による「日本語ブーム」が続いています。そんな中、朗読や音読が注目されています。子どもの国語教育だけでなく、大人向けにも「日本語の美しさを再認識する」「脳を鍛える」などのキャッチフレーズでCD付の教材がたくさん出版され、声に出して日本語を読む楽しさが伝えられています。選ぶ題材によっては、ことば遊びの日本語の授業になるでしょう。

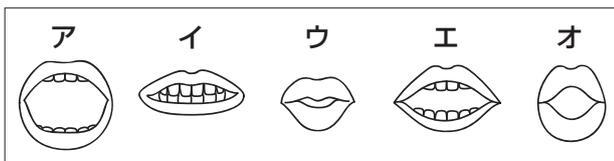
◆朗読・音読

1) 発声練習

五十音図は発声練習にも使えます。日本語の発声練習によく使われるのが、次の「口の運動」です。

あえいうえおあお a, e, i, u, e, o, a, o
 かけきくけこかこ ka, ke, ki, ku, ke, ko, ka, ko
 させしすせそさそ sa, se, shi, su, se, so, sa, so
 たてちつてたと ta, . . .

さあ、このやり方で「わ行」までやってみましょう。鏡を見て、次のような形で発音できるとよいでしょう。



2) 早口ことば

次に、早口ことばの練習をしましょう。みなさんの国にも早口ことばがありますか？ 日本語国際センターの研修を受けているいろいろな国の先生方にそれ

ぞれの早口ことばを披露してもらうことがあります。意味がわからなくても、いろいろな国の早口ことばを聞くだけでも楽しくなります。語彙が簡単なものだと、意味もわかってより楽しい練習となるでしょう。

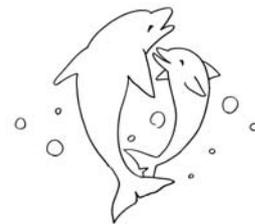


3) 詩

有名な詩の中には、語彙が簡単でリズムがよく、初級の日本語教育でも扱えるものがあります。例えば谷川俊太郎の詩など、「ことばあそびうた」として絵本も出ています。

「いるか」 谷川俊太郎

ゆね い りる い りる ま よ い い い
 めて い っ り な い ま た り っ っ
 みて りる ば い りる か て ら な い
 て りる りる い りる か りる ら っ
 りる りる りる い りる か りる ら
 か か か か か か か



(出典：谷川・瀬川 (1973))

次のように、動物のいるか以外にどんなことばがかくれているか考えさせながら、詩の内容を確認するとよいでしょう。

- ① 動物の「いるか」
- ② 「いるかしら?」「いるかな?」の「いるか」
- ③ 「いる」の否定の意味の「いない」
- ④ 「現在～ている」の意味の「～ているか」



を思い浮かべながら声に出してみましょう。

次に、学習者が自分で作る「創作四字熟語」ということば遊びを紹介しましょう。

◆創作四字熟語

「四字熟語」というのがありますね。例えば、「一石二鳥」や「前代未聞」のような、四つの漢字が一体となつて一つの決まった意味を生み出す慣用的な表現の事です。

そして、今回紹介する「創作四字熟語」はこのよ様なことば遊びです。

創作四字熟語

もともとある四字熟語の中の漢字や読み方を少し変えて別の新しい意味のことばを作り出す遊び

では、「創作四字熟語」を作ってみましょう。

例えば、「一日千秋」という四字熟語があります。「千秋」は「千年、長い年月」という意味ですが、四字熟語になると、「一日会わなくても長い間会っていないと思うぐらいに、恋しく思う、待ち望む気持ちが強い」という意味の表現になります。

これを「一日千秋」の「千秋」の読み方と同じことば「先週」に替えると、「一日先週」になります。そして、この漢字四つを見ながら何か新しい意味を考え出してみると、「先週会ったばかりなのにもう会いたい」というような、新しい四字熟語ができます。これが創作四字熟語のやり方です。

教室では、四字熟語をいくつか指定して、それについて各自作らせるといいでしょう。そのときに、

- ・ 創作四字熟語
- ・ 読み方
- ・ 意味
- ・ 元になった四字熟語

を必ず書くようにさせましょう。また、学生に四字熟語のリストを渡したり、上のレベルのクラスではウェブサイトを紹介したりして、その中から好きなものを選んで「創作四字熟語」を作るように宿題にするのもいいでしょう。

2006年度長期研修のクラスでは、このようなすばらしい作品ができました。

創作四字熟語	意味	元の四字熟語 (意味)
相縁永遠 あいえん えいえん	お互いの結びつきは一生ずっと続く	合縁奇縁 (人と人の気心が合ったり合わなかつたりするのは全て縁による)
無秒即妻 むびょうそくさい	一目ぼれをして1秒もたないですぐ妻になりた い気持ちになる	無病息災 (病気をしないで健康で元気でいる)
歯痛発達 しつうはつたつ	毎日歯がだんだん痛く なっていく	四通八達 (交通などが四方八方に通じている。人の往来が激しい所)

できた作品をみんなで比べ合せて、どの作品がいいか投票してみるのもいいでしょう。

2006年度の長期研修のクラスでは、この作品が最優秀賞に選ばれました。

波岸一緒

意味：ぞっこんほれ合っている*恋人同士のこと。
波と岸のように、別れても、後必ず一緒になる。

元の四字熟語：破顔一笑
(顔をほころばせて、にっこり笑う)

ロシア・クラスノヤルスク市のアンナ・ボイチェンコさんの作品

*ぞっこんほれ合っている = 心から愛し合っている

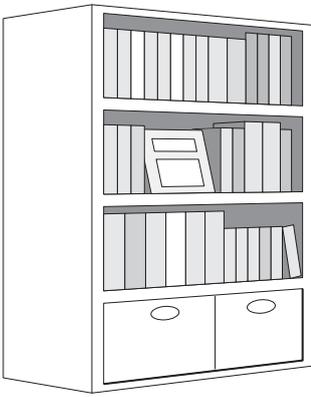
自分で考えて作ったりしたら正しい四字熟語が身につかない、まちがって覚えてしまうと心配する先生がもしかしたらいるかもしれません。でも、心配は要りません。学生が一生懸命元の四字熟語を選んだり新しい熟語を考えたりすることによって、きっと二つの熟語がいっしょに強く頭に残ることでしょう。

ある保険会社が「創作四字熟語」を募集して、いい作品を選んで発表するイベントを毎年行っています。毎年12月半ば頃に発表されますから、上級レベルのクラスでは今年の優秀作品を紹介してみるのもいいでしょう。その年の世相を反映した作品が多いですから、日本事情のいい勉強にもなることでしょう。ぜひ試してみてください。

参考資料

- 住友生命～創作四字熟語
<http://cam.sumitomolife.co.jp/jukugo/index.html>
- 創作四字熟語 <http://www8.plala.or.jp/shinozaki/cros-s4g.htm>
- 谷川俊太郎、瀬川康男 (1973)『ことばあそびうた』福音館書店
- 四字熟語データバンク
<http://cam.sumitomolife.co.jp/jukugo/index.html>
- 四字熟語の参考書 <http://www.tantaka.com/jukugo/>

早口言葉や四字熟語は本誌「本ばこ」(P.13)で紹介した『日本語の力がのびることばあそび』にも出ています。



本ばこ

—新刊教材・図書紹介—

「日本語の教材や図書に関する新しい情報がほしい」という海外の先生方の声をよく聞きます。このコーナーでは、最近出版された日本語教材や参考書を中心に紹介していきます。誌面の制約上、一回に多くの本を紹介できませんが、「海外の先生にとって使いやすい教材」「授業や研究の役に立つ本」、また、「知っていると便利な図書・資料」などを取り上げます。

- ※データ凡例 1 著者 2 出版社 3 刊行年月 4 ISBN 5 判型・ページ数 6 定価 7 その他

学習過程を取り入れた初級教科書

『J.Bridge for Beginners Vol. 1』

データ

- 1 小山 悟
- 2 凡人社 (〒102-0093 東京都千代田区平河町1-3-13 8F) TEL.03-3263-3959 FAX.03-3263-3116 URL. www.bonjinsha.com/
- 3 2007年3月
- 4 978-4-89358-631-5
- 5 B5判 296ページ
- 6 2940円
- 7 別冊1冊、CD2枚付

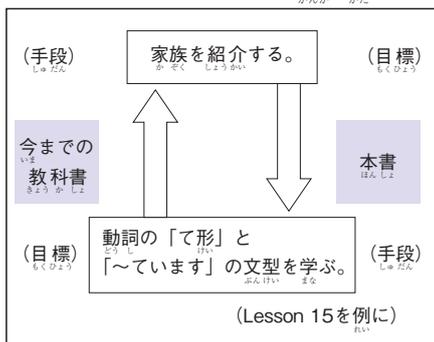
初級の教科書と言えば、基本文型の導入と代入やQ&Aなどの文型練習、学習文型を使った短い会話文という構成が一般的でしたが、そのパターンをくずす新しい初級教科書が出ました。

この教科書は、第二言語習得(SLA: Second Language Acquisition)の研究結果を利用して、学習者が日本語を学んでいく過程が教科書の構成や練習に取り入れられています。

▽トピック・シラバス

言葉は本来目的があって使われるものです。この教科書では、それぞれの課で取り上げた話題(トピック)について話したり書いたりできるようになることが目標になっています。今までの教科書のようにその課の学習文型を使って、どんな場面でも何ができるかという発想と全く逆ですから、文型も話題に合わせた提出順序になっています。

トピック・シラバスの考え方

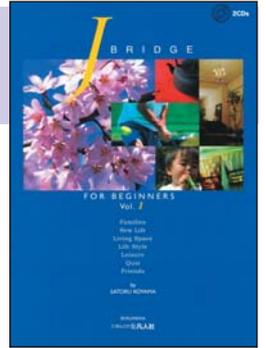


▽「観察→発見→創造」の学習の流れ

SLAでは、学習者が言葉のインプットを理解する中で、言葉の使い方や形をよく観察して規則を自分で発見すること、そして理解した言葉を使って自分のことを表現すること(創造)を通して使えるようになると言われていています。この教科書では、語彙や聴解の活動にCDが使われ、話せるようになるためのインプットとして位置づけられています。



P.41



▽スパイラル方式トピックを少し変えてくりかえす

学習者は、わかってでもできるようになるためには時間がかかる、ある文法や文型が使えるようになる時期は個人差があるということもSLA研究からわかっています。そこで著者は、何課か進んでから話題(トピック)を少し変えて、くりかえすことを考えました。この教科書では、7つの話題を3回くりかえして(ステップ1~3)、合計21課で構成されています(写真参照)。前の話題の時にできなかった学習者は次の時にもう一度勉強する機会があり、もうすでにできる学習者は話題が違うので飽きないで練習できるようになっています。

『J Bridge』は、中級編(実際には初級から中級への橋渡しとなる初中級レベル)が2000年に発行されました。

話す話題・内容を前面に出し、そのことを話すために使う表現や文型の形や用法を学習者自身が発見したり説明したりする活動はとても新鮮でした。また、話題や技能を変えて言葉を使う練習をくりかえす方法はここでも紹介されています。

初級編は、今後第2巻(Vol.2)が続いて発行される予定です。

MAP OF THE TEXTBOOK		MAP OF THE TEXTBOOK	
構成	Topics	Step 1	Step 2
Families	Lesson 1 家族について	p.3	Lesson 2 家族について
	Lesson 2 サイクルショップ	p.13	Lesson 3 プラザについて
New Life	Lesson 3 私の住んでいる町	p.23	Lesson 4 毎日の生活
	Lesson 4 毎日の生活	p.31	Lesson 5 いっしょに行きませんか
Living Space	Lesson 5 いっしょに行きませんか	p.41	Lesson 6 3つの質問
	Lesson 6 3つの質問	p.51	Lesson 7 日本人ですか
Life Style	Lesson 7 日本人ですか	p.61	Lesson 8 週末の予定
	Lesson 8 週末の予定	p.71	Lesson 9 週末の予定
Leisure	Lesson 9 週末の予定	p.81	Lesson 10 週末の予定
	Lesson 10 週末の予定	p.91	Lesson 11 週末の予定
Quiz	Lesson 11 週末の予定	p.101	Lesson 12 週末の予定
	Lesson 12 週末の予定	p.111	Lesson 13 週末の予定
Friends	Lesson 13 週末の予定	p.121	Lesson 14 週末の予定
	Lesson 14 週末の予定	p.131	Lesson 15 週末の予定

P.iv

P.v

日本の学校で学ぶ外国人の子どものための日本語教材

『マリアとケンのいっしょににほんご』 『学び』につながる16の活動



データ

- 1 横田 淳子・小林 幸江
- 2 スリーエーネット
- ワーク(〒101-0064 東京都千代田区猿楽町 2-6-3 松栄ビル) TEL.03-3292-5751
- FAX.03-3292-6195 URL. www.3anet.co.jp/
- 3 2007年3月
- 4 978-4-88319-423-0
- 5 B5判
- 153ページ
- 6 2100円
- 7 別冊付(教師用)

日本国内の公立学校に在籍している日本語にほんごの学習の必要な児童・生徒数は、2万692名に上るそうです(平成17年度文部科学省調査)。この教材は、そのような日本語を母語としない子どもたちのための教材です。具体的には、ごく初歩的な生活日本語がわかって、ひらがなが1字ずつ読める程度の日本語のレベルの子どもの対象としています。

課は、全部で16課になっています。「あいさつ」「じしゃく」「ごみ」「すごろく」「じゃんけん」「ラケットレース」「スーパーマーケット」など、日本での生活や学校場面など子どもたちの日本語使用場面や興味に沿った題材が採られています。

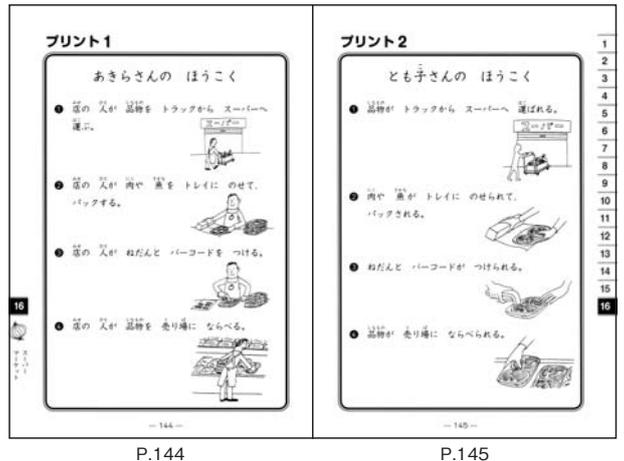
課の構成は、扉絵(内容がわかるように描かれた絵)、「プリント」(内容に関連した活動の手順を普通体で簡単にわかりやすく書いたもの)、「本文を読もう」(プリントの内容を丁寧体にして対話の形で提示したもの)、「練習しよう」(学習項目を定着させるための文法や読み書きが中心になっている練習問題)、「日本語を使おう」(学習項目を4技能で使う練習)となっています。

1課で扱われている学習項目は、他の課でも扱われ、繰り返し練習できるようにになっています。1課にかける時間は3~5時間が想定されています。

また、日本語を教えた経験のない教師にも配慮して、いろいろな工夫がなされています。例えば、文法用語の使用は最低限に限定されている上、日本語教育で使われているイ形容詞やナ形容詞という用語は使わず、学校文法で使われ

ている形容詞、形容動詞という用語を用いています。さらに、この教材を使う際の指導の流れや留意点などを記した手引きも充実しています。

この教材の前段階の教材として同じ作者による『いっしょににほんご』という絵教材も出版されています。



効果的な発表能力を身につけるための手引き

『アカデミックプレゼンテーション入門』

データ

- 1 三浦香苗・岡澤孝雄・深澤のぞみ・ヒルマン
- 小林 恭子
- 2 ひつじ書房(〒112-0011 東京都文京区千石2-1-2 大和ビル 2F) TEL.03-5319-4916 FAX.03-5319-4917 URL. www.hituzi.co.jp/
- 3 2006年12月
- 4 978-4-89476-337-1
- 5 B5判
- 225ページ
- 6 2310円
- 7 CD1枚付

本書は、学術的な口頭発表を効果的に行うための入門書です。

全7章からなる本書の構成は、①プレゼンテーションの基礎(アウトライン)と必要な日本語表現(数字・図表の説明・比較・接続) ②プレゼンテーションの例(「私の国・町」「私の専門」「アンケート調査」の3種類) ③話し方と態度(非言語的表現を含む)の三つに大別することができます。

中心部分のプレゼンテーションの例(②)は、まず、スライドの作り方から始まり、身近なトピック・専門的なトピックの順で、テキストからスライドへのまとめ方が示されて

います。次に、アンケート調査プロジェクトが事例により示されます。

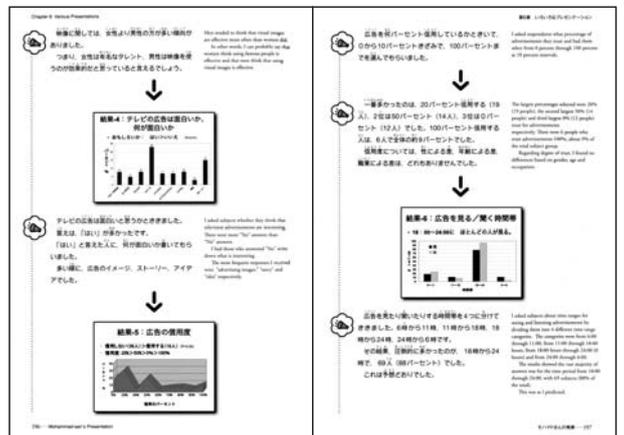
ここでは、スライドへのまとめ方や、スピーチ原稿の作り方だけではなく、アンケート調査に先立つ企画(テーマの設定、質問の項目や方法)や、データ分析の方法(必要な統計学の解説を含む)についても、ていねいに述べられています。

また、本書には、CD-ROMが付いていて、アンケート調査によるプレゼンテーションの映像とアンケート結果のデータ(エクセル)が収められています(その他に、かんたんにカイ2乗検定ができるソフトも入っています)。

プレゼンテーションは、必要な日本語の表現を学ぶだけではうまくできません。テーマの選び方、調査のしかた、分析の方法という内容面と、それをい

かにまとめ、そして発表するかという方法面でのスキルを身につけなければなりません。

大学生にも社会人にも、日本語による調査・研究とその発表において両方の能力を身につけたい人にとって適切な入門書だと思います。



海外でも国内でも、学習者にも教師にも役立つ表現文型の例文リソース

『中上級日本語表現文型-多様な日本語母語話者による例文集』

データ
1石橋玲子 **2**凡人社 (〒102-0093 東京都千代田区平河町1-3-13 8F) TEL.03-3263-3959 FAX.03-3263-3116 URL. www.bonjinsha.com/
32007年2月 **4**978-4-89358-634-6 **5**A5判 303ページ **6**2520円

日本語の中上級以上の学習者が表現文型を学習する時は、日本語で(学習者の母語でも)意味や構文を説明してもらっても、文型の使い方のニュアンスまでは理解できない場合が多いです。日本にいる学習者なら、たくさん使用例に接することができますが、海外にいと学習者は日本語に触れる機会(量と質)が少ないので、もっと学習が難しいです。教師にとっては、中上級以上の表現文型は日常生活であまり使われない領域のものも多いので、違った文脈の例文を複数考えようとしてもなかなか思いつきません。

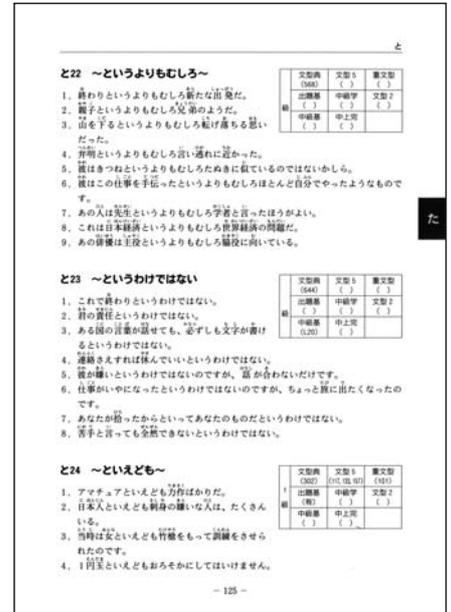
本書は、日本語を母語とする学生(例えば、日本語教育の授業を受けた学生や、日本語教員養成講座で学んだ人たち)から、一般の中老年の方までいろいろな年齢層、いろいろな文化背景の方が作った例文を集めたものです。

本書の文型は、話しことばのくだけた文型から、書き言葉のかなり固い文型、少し古い文型も含まれています。文型は50音順になっており、一つの文型には8前後の例文が紹介されています。すべての漢字にルビがふられています。また、常用漢字以外の漢字のものも含まれているので、例文の意味はわかっても漢字の読み方がわからない学習者がいる場合は、漢字の練習としても利用できます。

本書は、例文集なので、文型の意味や使用法の説明はありません。そのため、他の文型辞典で意味や用法が確認できるように、各文型と例文の横に8つの辞典やテキストの出典が表示され、日本語能力試験に該当する級もつけられています。また、例文は一般の母語話者のものなので、中級と言っても上級の文型が混じっている場合もあります。そのため、日本語の授業で文型導入として使用する場合は、教師が自分の学習者のレベルに合わせて選択する必要があります。

また、同じ文型の例文を取り上げるときでも、単に文型の意味を教師が説明するだけでなく、「どんな人が」「どのような文脈で」言ったかを学習者にグループで考えさせたい

り、同じような文脈を与えて例文を作らせたりすることもできると思います。



P.125

ゲームやクイズを楽しみながら文字やことばが覚えられる

『日本語の力がのびることばあそび』1~5

データ
1吉永幸司 **2**ポプラ社 (〒160-8565 東京都新宿区大京町22-1) TEL.03-3357-2212 FAX.03-3359-2359 URL. www.poplar.co.jp/
32007年3月 **4**978-4-591-以下 1:09606-2 2:09607-9 3:09608-6 4:09609-3 5:09610-9 **5**各B5判 47ページ **6**各2940円

本書は小学校低学年から中学年を対象にいろいろなことば遊びを数多く紹介しているのが特徴です。①から⑤まで全部で5巻ありますが、それぞれ以下のような内容です。

- ①「ひらがな・かたかな」では早口言葉、数え歌、連想してしりとり歌、だじゃれ、ことばたし算、穴埋めパズル、クロスワードパズルなど、日本語の「音」を使った遊びが紹介されています。
- ②「漢字であそぼう」では漢字の仲間探し、漢字カルタ、熟語しりとり、画数でたし算

ゲーム、四字熟語であそぼうなど、漢字を使ったさまざまな遊びが紹介されています。

③「文字であそぼう」では文字のかくれんぼ、パズル、ことばのサンドイッチ、文字で音をあらわそうなど、文字の形を使った遊びが紹介されています。

④「ことばをあつめよう」ではしりとり、慣用語、ことわざ、反対語、こそあど言葉、さまざまな方言など、語彙を集めることを中心にした遊びが紹介されています。

⑤「友だちにつたえよう」では伝言ゲーム、ジェスチャーゲーム、手話にちょうせん、数字のごろあわせ、なぞかけなど、みんなでするとより楽しい言葉遊びが紹介されています。

各巻は主に「ことば遊び」「やってみよう」「はってん」の三つの部分で構成されています。「ことば遊び」で紹介された遊び方を、「やっ



みよう」でその遊びやゲームを実際に楽しめます。さらに、「はってん」では「やってみよう」より少し難しい遊びを紹介しています。各巻の漢字にはすべて読み方がついています。それに、「やってみよう」や「はってん」に出ているゲームやクイズの答えも載っています。

漢字やことばの勉強を楽しくしようとする教師にも参考になる本と言えるでしょう。

P.11~13は国際交流基金の以下の日本語専任講師が図書を選び、分担して紹介文を執筆しました。

八田直美、三原龍志、生田守、金孝卿、王崇梁(執筆順)、木谷直之(選定のみ)

- 1) 話しことばか、書きことばか (文体)。
 - 2) 評価が入るかどうか (プラス評価・マイナス評価)。
 - 3) 意味の幅の違いはどうか。
 - 4) 時間的前後関係が存在するかどうか。
 - 5) 語の成り立ちによるもの、などなど。
- では、次にそれぞれについて見ていきましょう。

(1) この本を (a. 読んだら b. 読めば) わかる。

「～たら」と「～ば」を比べると、「～たら」のほうが話しことばとして使われることが多いですね。両者の違いは文体 (話しことばか、書きことばか) によるところが大きいです。

(2) 勉強 (a. しても b. したのに) だめだった。

(2) では、「～のに」には残念な気持ちや後悔の気持ちが含まれています。「～ても」にはそのような気持ちはあまり感じられません。評価が入るかどうかという点で、両者は異なっていると言えます。



(3) 私はもっと勉強 (a. ? するべきだ b. しなければならぬ)。

(4) 人間はいつかは (a. ? 死ぬべきだ b. 死ななければならない)。

(3) では、「～べきだ」が自分自身に使えない*のに対して、「～なければならない」は自分のことにも使えるという違いがあります。また、(4) では、「～べきだ」には忠告や助言の意味はあるけれど、「～なければならない」のような「当然そうなる」という意味はないということが言えます。これらのことは両者の意味の幅が異なることを示しています。

(5) 北海道に (a. 行ったら b. 行くなら)、あの店のラーメンを食べよう。

(6) 北海道に (×a. 行ったら b. 行くなら)、飛行機に乗ったほうがいい。

(5) (6) は時間的前後関係が存在するかどうかという問題です。(5) の前件「北海道に行く」と後件「あの店のラーメンを食べる」には時間の前後関係があります。ここでは「～たら」も「～なら」も適切になっていますが、(6) のように、「北海道に行く」と「飛行機に乗る」が同時に起こる場合は、「～たら」は不適切になります。つまり、「～たら」は前件が終わってから後件が起こるときに用いられるのに対し、「～なら」は時間的前後関係を必要としないと言えます。

(7) インターネット (a. を通じて b. を通して) 世界が広がった。

(8) インターネット (a. を通して b. を通じて) どんどん世界を広げてください。

「通して」は語源的に「通す」、一方、「通じて」は「通じる」という動詞から派生しています。「通す」が「彼は主張を通じた」のように意志的な意味合いを持つのに対し、「通じる」は「彼の主張が通じた」のように結果的な意味合いを持ちます。(7) では「世界が広がった」という結果表現が、(8) では「どんどん広げてください」という意志表現が来ています。どちらの場合も「を」を通じて・を通しての両方が可能ですが、意志や働きかけを表す場合は、「を通して」のほうが「を」を通じてより適切に感じられます。

以上、1)～5) の類義表現の違いについて見てきました。類義表現の違いを説明する方法のもう一つは、前回と今回勉強した「現象描写・判断・働きかけ」というとらえ方です。よく似た表現が、「現象描写」を表しているのか、話し手の「判断」を表しているのか、相手や他者に対して「働きかけ」をしているのかによって使い分けられる場合も多く見受けられます。

*「～べきだ」が「～べきだった」となると、「後悔」の気持ちを表し、自分自身のことにも使えるようになります。

(9) 私は学生時代にもっと勉強するべきだった。

参考文献

角田三枝 (2006) 「「接連接とモダリティの階層」とその応用」日本語学 vol.25

このコーナーの担当者：市川保子 (日本語国際センター客員講師)
このコーナーについてご感想や質問があれば送ってください。「ヤスコの日本語ハウス」という個人のホームページを開いています。
英語の翻訳も付いていますので、ぜひ活用してください。ホームページのアドレスは、<http://homepage3.nifty.com/i-yasu/index.htm>です。

KC研修生の
(関西国際センター)

Nipponレポート

第9回

放送局の仕事

このコーナーでは、関西国際センターの日本語研修に参加している
研修生が研修を通して発見したNipponについてレポートします。



「研究者・大学院生日本語研修 (2か月コース)」に参加したフダイバルディエヴァ・アジザさん (ウズベキスタン) は、国際ジャーナリズムを専攻しています。日本の放送局の仕事について知りたいと思い、日本放送協会 (NHK) に行ってみました。

◀NHK国際放送局長の佐藤さんと



【VTRコーナー】 (VTR Corner)

世界のニュースを集めて録画 (recording) しておきます。NHKでは、外国のニュースを伝えるとき、3~4か国の番組を見て、そのニュースの内容をチェックするそうです。

放送局の仕事を見せてもらいました。



【テレビスタジオと同時通訳ブース】

(TV Studio & Simultaneous Interpretation Booth)

外国語のニュースを日本語に翻訳します。1時間以内に翻訳して、放送するそうです。早いですね!



【子ども番組の収録】

(Recording of Children's Educational Program)

子どもがいっしょに番組に参加していました。ウズベキスタンには、そのような子ども番組はありません。

日本の放送局について詳しく知るために調べてみました。

《昔のNHK》

初めての放送：1953年2月1日午後2時

テレビカメラ：5台

放送時間：1日に9分

内容：スポーツや舞台の中継
(ほとんどが生放送)

初めての放送



《今のNHK》

テレビカメラ：約1500台

放送時間：24時間

内容：ニュース、教育、ドラマ、アニメなど
300以上の番組がある



日本のテレビ番組は種類が多いし、内容もおもしろいです。ニュースの情報もとても早いと思います。日本の放送局は働いている人も多し、機械やスタジオも多いので、いろいろな良い番組を作ることができるのだと思いました。

▽日本の放送局についてもっと知りたい人は下のURLを見てください。

- NHKオンライン (日英) <http://www.nhk.or.jp/>
- NHKデジタルミュージアム (日本語) <http://www.nhk.or.jp/digitalmuseum/>
- NHKは何を伝えてきたか-NHKテレビ番組の50年 (日英) <http://www.nhk.or.jp/archives/nhk50years/>

このコーナーの担当者：和泉元千春、廣利正代 [関西国際センター日本語教育専門員]、リポーター：フダイバルディエヴァ・アジザさん (ウズベキスタン)